石渡市長の所信表明

「鎌倉の未来をひらく」七つの原動力の活用を提唱

平成十三年十二月市議会定例会の開催に当たり、発言の機会を与えていただきましたので、ひと言ご挨拶を申し上げるとともに、市政に対する私の所信の一端を述べさせていただきます。

本日は、私にとりまして初めての定例市議会でございます。言うまでもなく、市政は議会と執行機関との緊密な連携の下に運営されるべきものでございます。そこで、私は、まず最初に市民の代表である市議会議員の皆様のご指導とご協力を切にお願い申し上げる次第でございます。

去る十一月一日に市長に就任して、はや一カ月が過ぎました。この間、事務の引き継ぎや、予算、事業の説明等を通じ、市政を取り巻く厳しい現状を目の当たりにするにつれ、覚悟はしておりましたものの、市長職という責任の重さを改めて認識した次第でございます。

私は、生まれてこの方、ずっと鎌倉市民としてこの地に暮らしてまいりました。その中で培いました市民感覚に加え、これまでの経営者としての経験や感覚を生かし、これからは市長として、情熱と持てる力のすべてを伝統ある鎌倉市政の発展にささげる覚悟でございます。

そして、十六万七千余の市民の生活を守るため、最善の政策を間違いなく決定できるよう、市の主役である市民の皆さんに満足していただけるかどうかを常に判断の基準としてまいりたいと思います。

鎌倉市は、市制がしかれた昭和十四年以来、今日までの長い歴史の中には、政治や経済の混乱で、幾度かの苦しい時代を経験してまいりました。そのような時代、多くの先人たちは持てる力を生かし、知恵を出し合って、危機的状況を乗り越えてまいりました。私たちも見習い、先人たちに負けないよう努力を重ね、市民の皆さんの英知を結集して、今の厳しい状況に立ち向かいたいと考えております。

今日では、もはや試行錯誤としての「地方の時代」は終わり、地方自治が着実に実績を重ねる中で分権の制度化がはかられるなど、市は、市民の日常生活と直結する礎自治体として、市民からの期待はますます大きなものとなってきております。

本格的な地方行政の自主的運営が始まった今、ここで何よりも大切なことは、地方からの発想に基づき、地域住民を主人公にしたまちづくりを進めることであると思います。すなわち、「鎌倉の個性を生かしたまちづくり」が求められているわけで、これを「市民と行政との協働」で進めていくことがますます重要になってきているのではないでしょうか。

「希望の世紀」と言われている二十一世紀を迎えた今なお、取り組むべき課題は決して少なくありません。それら課題の解決には、行政として総合的・長期的視野に立った対応が必要なのはもちろんですが、市民の皆さんの理解と協力が不可欠です。例えば、高齢社会における課題一つを考えてみても、単に高齢者対策にとどまることなく、少子化対策など人口構成も視野に入れることが必要です。そして、「希望の世紀」を本当に希望が持てる世紀とするために、社会の宝である子どもたち、二十一世紀を担っていく未来の主人公たちを社会の責任で育てていくことが大切なことだと思います。このように少子・高齢化対策一つをとっても、まさに社会構造の変革も強いるほどの重要な課題と言えるのではないでしょうか。このような誰も経験したことのない課題に対応するためには、多くの人々の英知を結集し、あらゆる事態に対応し得る適切な準備をする必要がございます。

私はこのたびの選挙を通じて、市政への市民の参画、とりわけ女性の皆さんの参画をいただきながら「開かれた、安心できる、元気のあるまちづくり」を基本的な考えとして提唱してまいりました。このようなまちづくりを推進するためには、あらゆる情報を共有し、市民参画の機会を明らかにし、特に、女性の視点からの意見を大切にし、活動を支援するなど市民感覚に適合した行政を推進することが大切であります。

そのためには、市民の皆さんと「ともに学び」「ともに考え」そして「ともに行動する」市政を目指すことが、やがては市民の皆さんとの協働によるまちづくりにつながることと確信をいたしております。この基本方針の下、これまで先人から引き継いでまいりました有形無形の貴重な財産を有効に活用していくとともに、二十一世紀の鎌倉を素晴らしいものとするために、個性を生かした魅力ある鎌倉らしいまちづくりを進めていく所存でございます。

昨今の社会経済情勢が市政運営にも大きな影響を与えた結果、行財政改革をはじめとする改革のうねりが起こり、今、行政は運営方法の根本的な見直しを迫られております。

更に、市民の皆さんの情報公開に対する認識の高まりや、これまで経験したことのない少子化や超高齢化社会の到来で、今日、地方公共団体が置かれている状況は過去に例がないほど厳しいものがございます。全国画一的だった自治体の壁は取り払われ、各々の自治体の姿勢や効率性が厳しく問い直される時代になりました。

その一方で、ＩＴ（情報通信技術）の目覚しい進展は、今後の行政サービスの手法を根本から変える可能性を秘めております。まさに、今ほど行政運営のあり方が問われているときはないと言えます。もちろん感覚など通用するはずもなく、行政に携わるすべての者は時代の変革を的確に受けとめ、危機意識、コスト意識を持って迅速に変革に臨む必要があると考えます。私の行財政運営の基本姿勢は、まさに職員一人ひとりの意識改革から始まると言っても過言ではございません。

私は選挙期間中、「鎌倉の未来をひらく」をキーワードに、今後のまちづくりにまい進することを市民の皆さんに訴えてまいりました。新世紀がスタートした節目の年に、このまちに暮らす私たちは鎌倉の未来に責任があると同時に、今の私たちの日々の暮らしも心豊かになるよう、行政をはじめ、市民一人ひとりが努力をしなければならないと考えております。私は、「鎌倉の未来をひらく」ためには、次の七つの原動力にあると考えております。

まず、第一番目に、子どもの元気が、鎌倉の未来をひらきます。

第二番目として、女性の視点が、鎌倉の未来をひらきます。

第三番目として、成熟した福祉社会が、鎌倉の未来をひらきます。

第四番目として、市民のための行政サービスが、鎌倉の未来をひらきます。

第五番目として、市民による自立自治が、鎌倉の未来をひらきます。

第六番目として、風格ある街づくりが、鎌倉の未来をひらきます。

第七番目として、世界と共有できる財産づくりが、鎌倉の未来をひらきます。

長渡　表信　市石　明行所

この七つの原動力を行政が活用させていただき、政策に反映させるため、今後、市民の皆さん、議員各位、職員との話し合いを持ち、意思疎通を図りながら幅広く、きめ細かな施策を展開してまいる所存でございます。

更に、一日も早い解決が必要な「ごみの減量化・資源化」「緑地保全」「少子・高齢化対策の推進」「教育問題」「交通対策」「都市整備」などの行政課題に積極的に対応していきたいと考えております。

すべての市民と行政が心を一つにして、自分たちの住む地域やまちをもう一度見直し、輝かしい鎌倉の未来を現実のものとしていくために、若い人のエネルギーとみずみずしい感性、高齢者の方の豊かな人生経験や英知を結集していかなければなりません。一歩一歩着実な歩みを進め、故郷として誇りの持てる鎌倉にできるよう、皆で力を合わせて頑張りたいと考えております。

市民の誰もが、人や自然に生かされていることを自覚し、感謝し、相手に対する思いやりを忘れず、鎌倉に住みたい、鎌倉に住み続けたいと望む素晴らしい鎌倉を、愛する子や孫に引き継ぐために、全力を尽くす覚悟でございます。

これまで、私の市政運営に当たっての思いを述べさせていただきました。市長として私に与えられました課題は余りにも大きいものがございます。市議会並びに市民の皆さまのご意見やご助言を支えに職責を果たしてまいりたいと考えております。

これからの市政運営にご理解とご協力を賜わりますよう切にお願いを申し上げまして、所信表明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

（全文を掲載）

一般質問

市長の政治姿勢をただす

公約の実現と課題への対応は

十二月定例会は、昨年十月に行われた市長選挙後の初議会であり、冒頭に市長から今後の市政運営に対する所信表明（別掲のとおり）がなされ、その基本方針が明らかにされました。

議会では、所信表明あるいは選挙公約や法定ビラに示された鎌倉の未来をひらくための七つの原動力（基本政策）の内容をはじめ新市長の政治姿勢などについて、十一名の議員が行政全般にわたり一般質問を十二月六日と七日に行いました。

本紙面では、各議員の行った質問（左に質問者と質問事項の表を掲載）の一部を掲載しました。詳細については、二月中旬発行予定の本会議録を図書館等でご覧ください。

質問者	質問事項
中村聡一郎	○ＮＰＯと行政の協働について
伊藤玲子	○行財政改革の推進について○教育行政の諸問題について
三輪裕美子	○市長の政治理念と当面の政策課題について（市長選挙の公約に関連して）
岡田和則	○大船・玉縄のまちづくり
児島　晃	○市民農園問題について○公約にある「徹底した行財政改革」について○ごみ問題について
福岡健二	○市長の政治姿勢について―行政課題と選挙公約に関連して―（平和意識について・子どもの元気が鎌倉の未来をひらくについて・職員の研修制度について・ごみ半減化計画について（非常事態宣言に関連して）・障害者、高齢者福祉の拡充について・緊急地域雇用創出特別交付金の活用について）
仙田みどり	○市長の選挙公約と政治姿勢について
澁谷廣美	○石渡新市長の政治姿勢について
伊東正博	○財政とまちづくりの課題について
前田陽子	○市長の政治理念と当面の政策諸課題について
吉岡和江	○「元気なまちをつくる」市長の公約に関連して（子育て支援について・高齢者が安心してすめるまちづくりのために・商店街の振興策について・緑保全について）

子育て支援

質問者…市長の基本政策のうち、子育て支援に高い優先順位を付けている理由を聞きたい。

市長…子どもは地域の宝で、鎌倉の宝であると考える。子どもの元気が鎌倉の未来をひらくと考えており、そういう意味で最重要課題の一つとした。

質問者…選挙公約の中で、子ども局の設置を提唱しているが、内容はどのようなものか。

市長…子育てに関する窓口を一本化し、情報の共有の下に行政内部や関係機関との意思疎通を図り、子育て支援に効果的な結果を生み出す組織の設置が必要だと考えた。この理念に基づき、子育てに関する業務や組織を整理・統合できるかなど、各方面の意見を聞きながら検討していきたい。

質問者…所信表明で、「少子化対策など人口構成も視野に入れることが必要」としているが、若い世代が鎌倉に多く住んでもらうための誘導策などを聞きたい。

市長…若年ファミリー層の増加と定住が市税の収入を安定・増加させ、財政の健全化につながる。もう一度若者が鎌倉に住みたい、訪ねたいとあこがれるようなアメニティーのあるまちづくりを推進していきたい。具体策として、子育て支援センターの設置運営・ファミリーサポートセンターの設置・保育制度の充実・情報教育の推進・学校施設の整備・ミニバス導入などが挙げられると考える。

質問者…保育園の待機児童対策として、腰越保育園では特別臨時交付金を活用して改修工事を実施した。定員の見直しをすべきと思うが、どうか。

市長…待機児童の解消は重要な課題と認識している。さまざまな施策を行い、解消に向け現在も努力している。腰越保育園については、今後も定員を超える状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しが必要となるものと認識している。

質問者…二十一世紀を担っていく青少年が、本当に強く生き抜いてもらうために「子ども会館」「子どもの家」の制度を更に前進するための工夫が必要と考えるが、見解を聞きたい。

市長…子育ては親の責任であると同時に社会の責任であると考える。「子ども会館」等の運営については子どもの自主性を高め、生き抜く力が育まれるように若いボランティアの活用など子どもとの触れ合いに重点を置く指導・育成の充実に心がけたい。

女性行政

質問者…「女性の視点が、鎌倉の未来をひらきます」としているが、具体的な政策は何か。

市長…私の女性行政の基本理念は、男女共同参画社会の実現である。鎌倉女性会議の設立や審議会への更なる女性参画など女性の視点を取り入れ女性の声を生かすシステムづくりを進めたい。

質問者…鎌倉女性会議の目的はどのようなものなのか。

市長…男女共同参画社会実現のためには、政策決定の場などあらゆる分野に男女が対等な構成員として参画・行動し、責任を負うことが必要であり、従来の男性・女性の役割意識にとらわれずに自由な発想の下で、協議し意見具申をいただきたいと考えている。

質問者…選挙公報などの女性行政の項目の「女性助役の登用」について聞きたい。

市長…今定例会には女性助役の選任議案を提出していないが、市政において女性助役の登用のメリットは大きいと考える。当面は積極的に女性人材の育成に努め、女性管理職を増やす必要があると考える。

質問者…女性だからという理由だけでお飾り的に起用することへの危惧を持っている。女性の助役より先に女性市長の誕生とならぬように公約実現に向けて力を入れて欲しい。

法定ビラの「成熟した福祉社会が、鎌倉の未来をひらきます」の一つの項目に「家族による高齢者・障害者の介護を積極的に支援します」との表現がある。介護の社会化の中で、この公約は女性の視点を市政に生かすことと矛盾しているのではないか。

市長…指摘のように家族による介護から社会的介護を目指すことを基本にし、行政が行うこと、地域社会が行うこと、個人や家族でできること、の分担した協働の社会づくりが必要であるが、居宅での介護サービスを充実して自立した生活を地域社会で支援すべきと考える。

市民活動部長…対等の立場で事業の計画立案、決定、実施を行い、結果責任も分担することと考える。協働の第一歩は信頼関係の確立と考える。

質問者…市長の考えを聞きたい。

市長…ＮＰＯとの協働は市民感覚と経営感覚を重視した行財政運営には欠かせないものである。ＮＰＯの自立、役割分担の明確化など早急に具体策を詰めて充実していきたい。

緑地保全

質問者…広町の緑の保全について市長の考えを聞きたい。

市長…都市林として保全していく方針であり、できるだけ早い時期に都市林の区域を定め実現に向け最大限努力していきたい。

質問者…都市林から外れた区域についてはどのように考えているか。

市長…地権者の意向、市の財政状況を踏まえながら保全をお願いしていく方針である。

質問者…市長就任後、広町の事業者と面談したとのことだが内容について聞きたい。

市長…事業三社からはこれまで合意形成を保ちながら進めてきた対応の継続を要望された。事業者と誠心誠意話し合い、ことと考える。職員が市役所は最大のサービス産業であると認識し、市民が満足する行政サービスを最少の経費で実現していく努力が必要と考える。窓口の一本化やワンストップサービスなどは市民サービス向上策の一つとして検討を進めたいと考えている。

質問者…職員の研修メニューについて考えを聞きたい。

市長…経営感覚、市民感覚、サービス精神を養うには派遣型あるいは体験型の研修が有効と考える。

質問者…市民団体への補助金見直しについて考えを聞きたい。

市長…個々の補助金の公益性などを客観的に判断する手法を策定する中で必要見直しを行っていきたい。

質問者…ＰＦＩ（民間資金を取り入れる手法）の導入について考えを聞きたい。

市長…現在、（仮称）山崎地区屋内温水プールについてＰＦＩの手法による建設を進めようとしている。今後、公共施設の整備に当たっては整備手法の一つとして位置付けるとともに制度の理解と研究を進め、資金の有効活用と低廉かつ良好なサービスの実現に努めていきたい。

更に保全に努力したい。

質問者…台峯の緑の保全についてはどうか。

市長…鎌倉中央公園の拡大区域として保全する方針であり、山崎台土地区画整理組合設立準備委員会との間でまちづくり条例に基づく手続きや保全の協議が進められているが更なる保全に全力を注いでいく。

質問者…公約にある地区計画による斜面緑地保全の実効性について認識を聞きたい。

市長…地区計画は地区の個性や特性に合わせたまちづくりを住民や地権者の合意形成を図りながら進めていくものであり、各々の意見をできるだけ反映するよう努め、理解と協力を得た上で緑地を地区施設として位置付けるなど保全の一手法になるものと考えている。

市民の自立自治

質問者…地方分権について基本的な認識を聞きたい。

市長…鎌倉の特性に応じたまちづくりを進め、生活を潤わせることと考える。市民本位の市政運営を行い、自治体の行政能力も高めなければならない。今まで以上に市の独自性が求められる。分権推進を実効あるものにするためには権限移譲の裏付けとなる財源の移譲が不可欠である。

質問者…基本政策の税負担軽減をどのような方法で行うのか。

市長…国から地方への税源移譲推進とともに行財政の効率化により市民の税負担を多少でも軽減することが可能と考え基本政策の一つとした。国への働きかけ、行財政の効率化を一層図っていきたい。

質問者…行政とＮＰＯ（教育・文化・福祉などさまざまな社会的活動を行う非営利の民間組織）の協働について認識を聞きたい。

市長…ともに重要な事業であり、いずれが優先ということではなく、両事業とも社会経済情勢に見合った事業として早期に立ち上げ、実施していきたい。

質問者…大船駅周辺と同時に深沢のまちづくりの課題もある。これからの財政運営が大いに絡む中で、現在どのようなまちづくりの方向性を考えているのか聞きたい。

市長…若年ファミリー層の転入あるいは定住促進のための子育て支援の充実を図るとともに大船駅東口再開発事業や深沢地区のまちづくりなどのさまざまな拠点整備事業を推進し、活力とにぎわいのある街へと高めていきたい。

質問者…市長は、鎌倉市における大船駅の役割をどう認識しているか。

市長…大船駅は本市の玄関口ばかりでなく、三浦半島あるいは湘南地方の玄関口であり、大変に重要な役割と機能を持った駅であると認識している。

質問者…選挙公報などで大船駅周辺地区再開発事業の見直しと再構築を述べている。何を見直し、何を再構築するのか聞きたい。

市長…現在の社会経済情勢に合った事業として早期に立ち上げることである。このような考えに基づき、総体的方向性の確立に向けての作業を積極的に進めていきたい。

質問者…大船駅東口再開発事業と大船駅西口整備事業に関して、どちらの事業を優先して進めようとしているのか。

市長…ともに重要な事業であり、いずれが優先ということではなく、両事業とも社会経済情勢に見合った事業として早期に立ち上げ、実施していきたい。

質問者…大船駅周辺と同時に深沢のまちづくりの課題もある。これからの財政運営が大いに絡む中で、現在どのようなまちづくりの方向性を考えているのか聞きたい。

市長…若年ファミリー層の転入あるいは定住促進のための子育て支援の充実を図るとともに大船駅東口再開発事業や深沢地区のまちづくりなどのさまざまな拠点整備事業を推進し、活力とにぎわいのある街づくりを推進するためには、あらゆる情報を共有し、市民参画の機会を明らかにし、特に、女性の視点からの意見を大切にし、活動を支援するなど市民感覚に適合した行政を推進することが大切であります。

そのためには、市民の皆さんと「ともに学び」「ともに考え」そして「ともに行動する」市政を目指すことが、やがては市民の皆さんとの協働によるまちづくりにつながることと確信をいたしております。この基本方針の下、これまで先人から引き継いでまいりました有形無形の貴重な財産を有効に活用していくとともに、二十一世紀の鎌倉を素晴らしいものとするために、個性を生かした魅力ある鎌倉らしいまちづくりを進めていく所存でございます。

昨今の社会経済情勢が市政運営にも大きな影響を与えた結果、行財政改革をはじめとする改革のうねりが起こり、今、行政は運営方法の根本的な見直しを迫られております。

更に、市民の皆さんの情報公開に対する認識の高まりや、これまで経験したことのない少子化や超高齢化社会の到来で、今日、地方公共団体が置かれている状況は過去に例がないほど厳しいものがございます。全国画一的だった自治体の壁は取り払われ、各々の自治体の姿勢や効率性が厳しく問い直される時代になりました。

その一方で、ＩＴ（情報通信技術）の目覚しい進展は、今後の行政サービスの手法を根本から変える可能性を秘めております。まさに、今ほど行政運営のあり方が問われているときはないと言えます。もちろん感覚など通用するはずもなく、行政に携わるすべての者は時代の変革を的確に受けとめ、危機意識、コスト意識を持って迅速に変革に臨む必要があると考えます。私の行財政運営の基本姿勢は、まさに職員一人ひとりの意識改革から始まると言っても過言ではございません。

私は選挙期間中、「鎌倉の未来をひらく」をキーワードに、今後のまちづくりにまい進することを市民の皆さんに訴えてまいりました。新世紀がスタートした節目の年に、このまちに暮らす私たちは鎌倉の未来に責任があると同時に、今の私たちの日々の暮らしも心豊かになるよう、行政をはじめ、市民一人ひとりが努力をしなければならないと考えております。私は、「鎌倉の未来をひらく」ためには、次の七つの原動力にあると考えております。

まず、第一番目に、子どもの元気が、鎌倉の未来をひらきます。

第二番目として、女性の視点が、鎌倉の未来をひらきます。

第三番目として、成熟した福祉社会が、鎌倉の未来をひらきます。

第四番目として、市民のための行政サービスが、鎌倉の未来をひらきます。

第五番目として、市民による自立自治が、鎌倉の未来をひらきます。

第六番目として、風格ある街づくりが、鎌倉の未来をひらきます。

第七番目として、世界と共有できる財産づくりが、鎌倉の未来をひらきます。

理事者と向き合う各議員（本会議場内）

行財政改革

質問者…行財政改革について市長の姿勢を聞きたい。

市長…経営の視点から事業と人員を見直し、効率的な行財政運営を目指すとともに市民参加の開かれた市政を展開するとともに、市民が満足する行政サービスを最少の経費で実現していく努力が必要と考えると認識し、市民が満足する行政サービスを最少の経費で実現していく努力が必要と考える。窓口の一本化やワンストップサービスなどは市民サービス向上策の一つとして検討を進めたいと考えている。

質問者…職員の研修メニューについて考えを聞きたい。

市長…経営感覚、市民感覚、サービス精神を養うには派遣型あるいは体験型の研修が有効と考える。

質問者…市民団体への補助金見直しについて考えを聞きたい。

市長…個々の補助金の公益性などを客観的に判断する手法を策定する中で必要見直しを行っていきたい。

質問者…ＰＦＩ（民間資金を取り入れる手法）の導入について考えを聞きたい。

市長…現在、（仮称）山崎地区屋内温水プールについてＰＦＩの手法による建設を進めようとしている。今後、公共施設の整備に当たっては整備手法の一つとして位置付けるとともに制度の理解と研究を進め、資金の有効活用と低廉かつ良好なサービスの実現に努めていきたい。

まちづくり

質問者…市長の言う「風格のある街づくり」とは具体的にどのようなものか。

市長…バリアフリーに配慮したまちづくりとして、安全な道路の整備や電線の地中化に取り組むことが必要と考えている。

質問者…建物の色や高さの規制についてはどう考えるか。

市長…建物の色彩・デザインなどを周辺景観に調和させていくことは、風格のある街づくりを進めていく中で欠かせない要素である。市民・事業者・行政などが相互に連携しつつ、先人が守り育ててきた鎌倉の景観を積極的に継承・発展させ、より魅力的で快適なものを実施した。定員の見直しをすべきと思うが、どうか。

市長…待機児童の解消は重要な課題と認識している。さまざまな施策を行い、解消に向け現在も努力している。腰越保育園については、今後も定員を超える状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しが必要となるものと認識している。

質問者…二十一世紀を担っていく青少年が、本当に強く生き抜いてもらうために「子ども会館」「子どもの家」の制度を更に前進するための工夫が必要と考えるが、見解を聞きたい。

市長…子育ては親の責任であると同時に社会の責任であると考える。「子ども会館」等の運営については子どもの自主性を高め、生き抜く力が育まれるように若いボランティアの活用など子どもとの触れ合いに重点を置く指導・育成の充実に心がけたい。

ごみ　減量化・資源化

質問者…ごみ半減非常事態宣言が出たが、ごみ半減計画（以下、計画）の進行管理、ごみの総排出量の抑制について認識を聞きたい。

資源再生部長…ごみ半減達成が厳しい状況にあることを市民事業者に理解してもらい、より一層の分別徹底に協力いただくため宣言を行った。進行管理はごみ半減計画対策本部を立ち上げ、行ってきている。ごみの総排出量に排出抑制の効果が反映できずにいたことは事実である。

質問者…市長の考えを聞きたい。

市長…計画は循環型社会の形成を目指している本市の第一歩であり最重要課題である。ごみの発生抑制を進めることや資源物の分別徹底を進めるための新たな施策を検討中であり、市民や事業者の理解と協力を得ながら実施して半減化を達成したい。

質問者…事業系のごみについて考えを聞きたい。

市長…計画達成に向け、多量排出事業者への自己処理及び減量化・資源化の要請、各商店会への指導、全事業所排出量・排出先実態調査、鎌倉駅・大船駅周辺の商店街の早期収集とごみステーションの廃止また、一般廃棄物処理業許可業者との連携により事業系ごみの減量化・資源化の徹底を実施していく予定である。

質問者…生ごみ処理機普及のための電動式の補助制度を拡充する考えはないか。

市長…更なる普及を図るため助成率の引き上げを前向きに検討したい。

質問者…ごみの有料化導入について聞きたい。

市長…住民との合意形成が不可欠と認識している。現在、廃棄物減量化及び資源化推進審議会に諮問し、審議をお願いしているところである。